

平成28年度 札幌南三条病院 病院指標

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～	10～	20～	30～	40～	50～	60～	70～	80～	90～
患者数	-	23	21	33	88	332	1042	926	221	-

10未満の患者数は(ハイファン)を使用しています。  
 退院患者さんの人数を10歳刻みで集めています。  
 60歳以上の入院患者さんが全体の8割を占めており、手術・化学療法・免疫療法などの治療を行っています。  
 また、若年層の多くは気胸の患者さんで、手術や保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)などを行っています。

診断群分類別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X97X10X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2あり(中心特 脈注射、人工呼吸) 副傷 病なし	200	15.92	21.29	6.00%	67.76	
040200X01X00X	気胸 肺切除術等 手術・ 処置等2なし 副傷病なし	61	9.62	10.09	1.64%	33.26	
040040X97X00X	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2なし	43	9.53	12.73	0.00%	66.81	
040200X99X00X	気胸 手術なし 手術・処 置等2なし 副傷病なし	34	10.88	9.14	8.82%	53.09	
040200X97X00X	胸郭の良性腫瘍 手術あ り	15	11.27	9.15	0.00%	54.13	

当院では、胸に開けた小さな穴に胸腔鏡を用いて、病気の部分を切除したり縫合する胸腔鏡手術を積極的に導入しております。  
 呼吸器外科で最も多いのは、肺がんの手術症例です。これは従来の開胸手術に比べて比較的小さな創で行える手術のため、創の痛みや大きさ、体へ負担が少なく回復も早く、入院期間が短くなります。当院では全国平均より平均在院日数が5.37日短くなっており、3番目に多い症例は、1番目の肺癌手術と比較すると、部分切除など比較的切除範囲の小さい手術や、輸血を行う症例となります。こちらも胸腔鏡手術を使用することが多く、全国平均より平均在院日数が3.20日短くなっており、2番目と4番目に多い症例は、気胸という胸膜に穴が開いて呼吸が密しくなる病気の症例です。  
 2番目の症例は手術を行った症例、4番目の症例は保存的加療(手術をせず、ドレーンを入れたり自然治癒するのを待つ治療)を行った症例です。どちらも全国平均と比べて平均在院日数が同じくらいとなっています。

■呼吸器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均 在院日数 (自院)	平均 在院日数 (全国)	転院率	平均年齢	患者用パス
040040X99090XX	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり(アムタム)	694	9.77	10.76	0.72%	67.69	
040040X99040X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり(化学療法あ りかつ放射線治療なし) 副 傷病なし	464	11.02	12.35	1.29%	66.91	
040040X99100X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等あり(気管支 鏡検査など) 手術・処置 等2なし	323	2.02	3.68	0.00%	68.96	
040040X99050XX	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・ 処置等2あり(カルボプラチ ン・パクリタキセル/アプ ラキサン)	172	13.51	19.24	2.33%	69.87	
040040X99080X	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等2あり(アムタ ム)	91	9.43	12.01	3.30%	70.64	

呼吸器内科の多い症例は、肺癌の化学療法です。  
 使用する薬剤によって在院日数は変わりますが、全国平均よりも短い傾向です。  
 最も多い症例は、アムタムという抗がん剤を使用した肺癌の化学療法となり、平均在院日数は9.77日となります。  
 2番目に多い症例は、特定の抗がん剤(アムタム、カルボプラチンとパクリタキセル、アムタム等)以外を使用した肺癌の化学療法になります。平均在院日数は、11.02日で全国平均と比べ1.33日短くなっています。集計方式の関係上、一部の抗がん剤(オプジーボ、キイトルーダ、タグリッソ)が除外されており、その合計が16年あります。  
 3番目の気管支鏡検査は、癌かどうかを判別したり、がんの組織を調べたりするときに行います。当院では1泊2日の入院で行うことが多いためです。  
 4番目に多い症例は、カルボプラチンとパクリタキセルという抗がん剤を使用した肺癌の化学療法です。平均在院日数は13.51日で、全国平均と比べ5.73日短く、上位5位の中で最も差が大きいです。  
 5番目に多い症例は、アムタムという抗がん剤を使用した肺癌の化学療法です。平均在院日数は9.43日で、この化学療法も全国平均より短くなっています。  
 また、上位5位の平均年齢が年齢階級別退院患者数1で示した通り、患者数が多く60歳～70歳代となっています。

初発の5大癌のUICC病期分類並びに再発患者数

	初発					再発	病期分類 基準(※)	版数
	Stage I	Stage II	Stage III	Stage IV	不明			
胃癌	-	-	-	-	-	-	-	-
大腸癌	-	-	-	-	-	-	-	-
乳癌	-	-	-	-	-	-	-	-
肺癌	338	91	576	732	226	415	1	7
肝癌	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 1: UICC TNM分類, 2: 癌取扱い規約  
 10未満の患者数は(ハイファン)を使用しています。  
 この患者数は延べ数となっております。  
 当院ではIV期、III期、II期の順に患者数が多くなっております。  
 不明に分類される患者さんは、診断時の「疑い」の患者さんや、がんの広がりを調べる前の患者さんを含みます。  
 226名の不明だった患者さんはその後、70名がStage I、10名がStage II、33名がStage III、29名がStage IVと診断し、それぞれの病期、体の状態に合わせた手術・化学療法などの幅広い治療を行っています。  
 それ以外の患者さんは、11名を他の医療機関へ紹介いたしました。  
 残りの73名は、肺癌以外の別の病気があったり、肺癌ではなかったり、他の病気の治療のため来院が中断された患者様などが含まれます。

成人市中肺炎の重症度別患者数等

	患者数	平均 在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	27	13.33	75.44
重症	-	-	-
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

10症例未満の症例は(ハイファン)を使用しています。

脳梗塞のICD10別患者数等

ICD10	病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
G45S	一過性脳虚血発作及び間 連症候群	3日以内	-	-	-	-
G46S	脳血管疾患における脳の 血管(性)症候群	3日以内	-	-	-	-
I63S	脳梗塞	3日以内	-	-	-	-
I65S	脳実質外動脈の閉塞及び 狭窄 脳梗塞に至らな かったもの	3日以内	-	-	-	-
I66S	脳動脈の閉塞及び狭窄 脳梗塞に至らなかったもの	3日以内	-	-	-	-
I67S	もやもや病<ウイリス動脈 輪閉塞症>	3日以内	-	-	-	-
I679	脳血管疾患、詳細不明	3日以内	-	-	-	-

10症例未満の症例は(ハイファン)を使用しています。

診療科別主要手術別患者数等(診療科別患者数上位5位まで)

■呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均 術前日数	平均 術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K514-23	胸腔鏡下悪性腫瘍手術 (肺葉切除又は1肺葉を越 えるもの)	150	2.58	12.01	4.67%	67.63	
K5131	胸腔鏡下肺切除術(肺葉 切除手術(楔状部分切除)に よるもの)	65	4.42	4.57	1.54%	34.98	
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 (部分切除)	50	3.04	5.54	2.00%	67.50	

K5143	肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を越えるもの)	17	3.94	15.06	5.88%	68.94
K488-4	胸腔鏡下試験切除術	16	2.13	4.13	0.00%	63.88

1番目、3番目は肺癌に対して行われる胸腔鏡下手術で、1番目が肺葉、3番目が部分切除です。  
4番目も肺癌に対して行われる手術ですが、こちらは開胸手術となり、肺葉の切除術です。  
これらの手術はがんの進行度や患者様の状態によって決定しております。  
2番目は主に気胸に対して行われる胸腔鏡下手術で、平均年齢は他の手術と比較すると若い傾向にあります。

■呼吸器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢	患者用パス
K6113	抗悪性腫瘍剤、静脈又は腹腔内持続注入用槽込型カテーテル設置(頭頸部その他に設置した場合)	13	6.54	13.54	7.69%	66.92	
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-

10症例未満の症例は-(ハイフン)を使用しています。  
抗がん剤の持続投与が必要な場合などに、血管内に薬剤を注入するための機器を皮膚の下に埋め込む手術になります。  
この手術を使うと、末梢血管のルート確保が困難な場合、何度も針を刺して苦痛が伴うことを避けることができます。  
診療科は呼吸器内科ですが、手術は呼吸器外科の医師が行います。  
手術後、すぐに化学療法を行っているため、平均術後日数が13.54日と長くなっております。  
平均術前日数も、治療を行ってから手術を行う場合があり、6.54日と長くなっております。

その他(DIC、敗血症、その他の真菌症および手術・術後の合併症の発生率)

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	-	-
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	-	-

10症例未満の症例は-(ハイフン)を使用しています。